

卒業論文集作成にあたって

ゼミ生にとって、本年度は例年と異なり、波乱の年度となった。2011年3月11日の東日本大震災を我々は経験した。いまだ記憶に新しいが、日常生活へ戻れるか不安を抱えたままに、新学期が始まり、学内活動や就職活動に追われたことと思う。ここに、7名が卒業論文を提出し、卒業論文集を作成することができたことを、慶びたい。

また、本年度は内藤先生の代講を井出野が行なったことも、ゼミ生に苦勞をかけたのではないだろうか。ゼミでは、各人のテーマ決め、計画のためのディスカッションにほとんどの時間を割いた。進捗の遅さに皆不安になったことと思うが、発表やディスカッションの大切さ、そして、研究の楽しさを少しでも感じていただけたのであれば、幸いである。

本論文集は、以下の卒業論文で構成されている。個性的なメンバーにふさわしい、個性的なテーマが揃っている。

鎌田 浩平 社会的場面における反抗に関する検討

—心理的リアクタンス理論、自由への脅威への反抗—

齋藤 友恵 無意識における人の探索行動に関して

高橋 香織 「良い人」に関する研究

—「良い人」とはどのような人か、学校教育の視点から考える—

矢内 瑞樹 手続き的公正と協力傾向

肖 堯 潜在的連想テストを用いたリスク認知の検討

—中国人留学生を対象に—

程 文強 お金持ちのイメージに関する研究

斎藤 裕介 不確実性の認知に関する一考察

—意思決定と不確実な言説への態度との関連—

振り返ってみて、どの研究テーマも大変興味深い、一方、テーマと測定までに時間がとられすぎ、実際の論文作成の指導が十分に行なえなかった。論文の内容に関する、問題点は、ひとえに私の責任とお考えいただきたい。

最後に、貴重な機会を与えていただいた、内藤先生、高崎経済大学の教員の方々、そし

て、色々な場面で支えてくださった事務の方々に感謝の意を表する。そして、ゼミの方々のこれからのご活躍を心からお祈りいたしております。

2012年3月

井出野 尚